

大阪経済記者クラブ会員各位

(配布先：大阪科学・大学記者クラブ、大阪府薬業記者クラブ)

大阪商工会議所×国立循環器病研究センター×国立医薬基盤・健康・栄養研究所 連携協定について

[問合せ] 大阪商工会議所 産業部
常深・根来 電話 06(6944)6484

大阪商工会議所と国立循環器病研究センター、国立医薬基盤・健康・栄養研究所は、医療や健康分野における課題解決、研究機能強化、産業振興の推進を加速するための連携協定を尾崎会頭、小川理事長、米田理事長が出席のもと、2月10日大阪商工会議所にて締結する。

- 三者は、大阪商工会議所が主催する「MDF（次世代医療システム産業化フォーラム）」や「DSANJ（創薬シーズ・基盤技術アライアンスネットワーク）」等（※資料1）を通じて、従来から医師や研究者のニーズに基づく医療機器開発や創薬の取り組みを進めてきたが、本提携により、健康や予防分野におけるモノ・サービスの開発、プロジェクトの創出等についても推進する。
- 大阪商工会議所は、最先端医療から疾病予防、健康維持・増進、スポーツといった幅広い分野を含むウェルネス産業の振興を進めており、今回の連携協定締結により、具体的な取り組みが進展すると期待される。
- また、大阪商工会議所は20年にわたり、ライフサイエンス産業振興に注力し、大阪・関西における国際的な健康・医療産業拠点の形成を目指してきた。2019年に国立循環器病研究センターが移転し、国立医薬基盤・健康・栄養研究所の「国立健康・栄養研究所」が今後移転を予定する北大阪健康医療都市（健都：JR東海道本線岸辺駅前）においては、「健康と医療」をキーワードに、企業等の研究施設を集積させ、国際級の医療クラスター（集積地域）の形成を目指している。

1. 締結式の概要

日時 2021年2月10日（水）10:00-10:30

場所 大阪商工会議所6階「白鳳の間」

(大阪市中央区本町橋2-8 TEL:06-6944-6484)

出席者	大阪商工会議所	会頭	尾崎 裕
		専務理事	宮城 勉
	国立循環器病研究センター	理事長	小川 久雄
		オープンイノベーションセンター長	宮本 恵宏
	国立医薬基盤・健康・栄養研究所	理事長	米田 悦啓
		理事	阿部 圭一

2. 想定される具体的な連携事業（案）

- (1) 次世代医療システム産業化フォーラム「マッチング例会（現場ニーズ等の提供）」
- (2) イノベーションカフェ(シーズ・ニーズ等の提供)
医療従事者や研究者から企業へのシーズの発表に加え、企業から医療従事者や研究者へ技術やサービスなどを発表し、新たなイノベーションを創出。
- (3) 国立循環器病研究センター／国立医薬基盤・健康・栄養研究所ツアー
- (4) かるしお事業の推進
循環器疾患の予防と治療予後へ向けて、美味しい減塩食「かるしお」の普及・啓発を進めており、かるしお認定・レシピコンテストなど様々な取り組みを行なっている。国立医薬基盤・健康・栄養研究所と大阪商工会議所の連携を強化することで、循環器疾患にも奏功する取り組みへと展開する。
- (5) ユーザー評価事業
医療現場等の課題解決に資する製品・サービスの研究開発案件（コンセプト含む）に対し最適な評価者（医療従事者等）による評価（コメント提供）を実施。
- (6) その他
研究成果の普及啓発、共同研究、実証事業等の必要と認められる業務。

3. 提携により得られる効果

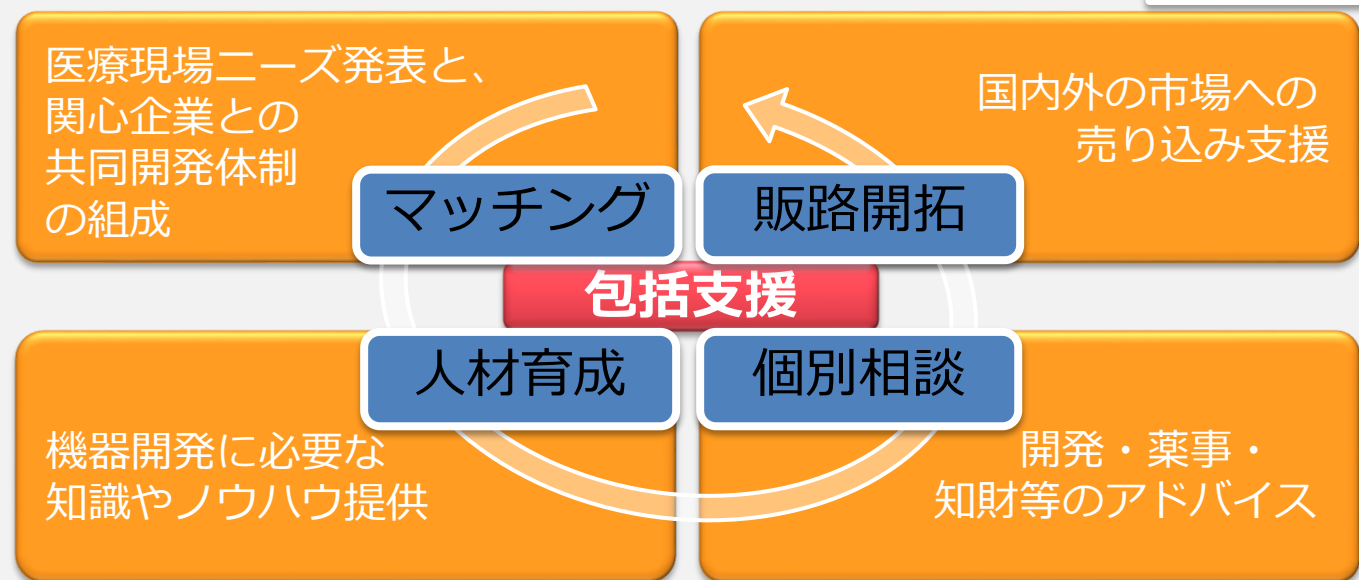
- (1) 大阪商工会議所にとっては、ウェルネス分野における新たな製品やサービス創出による産業振興の取り組み強化を図ることができる。
 - ①医師などの医療現場ニーズに基づく医療機器開発に加え、医療現場等の課題解決のためのモノやサービスの開発、これまで扱えなかった現場ニーズを企業に提供することができる。
 - ②医療機器等の開発に取り組む企業に対し、随時、医療従事者から開発段階の製品等についてのユーザー評価（製品評価）を受ける機会を提供できる。
 - ③健康・医療分野における共同研究等を通じ、研究成果の実証・社会実装につなげることで、信頼性の高いエビデンスに基づく製品・サービス創出につなげることができる。
- (2) 国立循環器病研究センターにとっては、オープンイノベーションにより、最先端医療・医療技術の開発で世界をリードするという国循のミッションを実現することができる。また、国立医薬基盤・健康・栄養研究所と連携することで近年増加する自然災害時や緊急時における減塩の必要性等についても発信力を高めることができる。
- (3) 国立医薬基盤・健康・栄養研究所にとっては、健康長寿社会の実現を目指していることから、医薬品等の開発に資することとなる共通的な研究、健康の保持増進及び栄養や食生活に関する調査研究等を推進していく中で、共同研究の実施や研究成果の普及啓発等に際してのパートナーとなる対象が広がり、イノベーションの促進や成果の社会実装に一層つながることが期待される。

【添付資料】

- 資料1 大阪商工会議所ウェルネス関連事業概要
- 資料2 国立循環器病研究センター概要
- 資料3 国立医薬基盤・健康・栄養研究所概要

- 大阪商工会議所が全国に先駆けて2003年より実施する、**医工連携による医療機器等開発促進プラットフォーム**。フォーラムには、**毎年**の130社程度の企業が**有料**で参加。
- 年7回の例会で、**医師・研究者から40件以上の「医療現場ニーズ」**を発表し、関心ある企業と発表者との個別面談を実施。マッチングが成立すれば、発表者と企業の共同研究・共同開発を進める。
- マッチング後も、**専門家への個別相談**や**医療機関と連携した開発コンセプトの検証**、**販路開拓支援**等、様々な事業化支援を実施し、上市までを包括的に支援
- ニーズ発表826件、共同開発401件、事業化57件（2003～2020の累計）

4つの支援分野



分科会の設置

デジタル医療

看護・在宅

介護・福祉

再生医療

ユーザー評価

DSANJ (創薬シーズ・基盤技術アライアンスネットワーク)について

■大阪商工会議所が**2008年**より実施する製薬企業の創薬研究活動を支援するプログラム。国内外の**大学・研究機関・バイオベンチャー等の創薬技術シーズと製薬企業のマッチング**を行い、**新薬開発を目指す**。

■年2回の商談会「Bio Conference」には、例年、**製薬企業約40社が参加し、招聘する創薬技術シーズ約130件**のうち、関心のある案件とのマッチング面談を実施。

■発表シーズ1156案件、商談数6694件、共同研究63件（2010～2020の累計）

①情報収集 ⇒ ②評価 ⇒ ③編集
⇒ ④商談会「Bio Conference」
⇒ ⑤フィードバック
⇒ ⑥共同研究契約締結
を半年に1回のサイクルで実施。
製薬企業の目線で案件を評価し、
企業の創薬シーズ導入を支援し、
創薬分野の産学連携を推進



主 催：大阪商工会議所
日本医療研究開発機構
日本製薬工業協会
医薬新結合研究所

共 催：大阪府、大阪市、関西医薬品協会

大阪商工会議所ウェルネス産業振興事業

- 大阪商工会議所中期計画／ウェルネス加速フィールド
- ウェルネス未来社会デザイン共創ネットワーク
- 次世代医療システム産業化フォーラム（MDF）
（医療機器・介護・健康増進機器並びに周辺機器等）
- 新型コロナウイルス感染症に関連した取組み
- スポーツハブKANSAI
- 創薬シーズ・基盤技術アライアンスネットワーク（DSANJ）

大阪商工会議所中期計画 ウェルネス加速フィールド

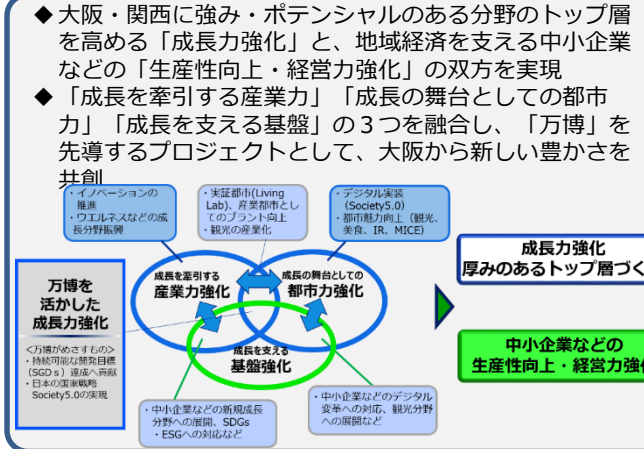
大阪・関西がめざすべき都市像（2025～2030年頃）

- ◆大阪・関西は、2025年～2030年頃に、「日本の成長を牽引する、アジアのイノベーション・ハブ」となることを実現
 - ◆大阪・関西に強み・ポテンシャルがあり大きな成長が期待される先端分野において、研究開発・産業の集積をはかり、国内外から多様な人材・企業を惹きつけ、大きく育てることで、日本全国・アジア・世界へ賑わいの好循環を拡大
- ～"アジアのイノベーション・ハブ"に～
- ～多極化をめざす日本の中での最も有力な"極"の一つに～

外部環境の変化

- ①人手不足・事業承継への対応
- ②SDGsの達成や、環境負荷低減への貢献、第4次産業革命・Society5.0に即した新事業展開
- ③万博、IRなど大阪・関西の新たな発展基盤構築

強化する方向性



たとと繁盛 大阪アクションN e X T ～産業×都市×基盤で新しい豊かさを共創～（2020～2022年度）

＜戦略プロジェクト＞ 中堅・中小企業の成長分野参入を支援

Towards and Beyond EXPO2025

- 「2025年大阪・関西万博」に向け、また2025年以降の大阪・関西の成長も見据え、ウェルネス、都市魅力、イノベーションなどの成長分野への、中堅・中小企業の参入を支援
- なかでも、「2025年大阪・関西万博」に関わる事業は、「Towards and Beyond EXPO2025」として位置付け

【1】ウェルネス加速フィールド

①ライフサイエンス・ヘルスケア産業の深耕プロジェクト

- 最先端医療から疾病予防、健康維持・増進、スポーツまで幅広い領域で、多様な業種の企業参入とウェルネス産業拠点形成を推進

②スポーツ産業の拡大プロジェクト

- 多様な分野の企業や大学・研究機関などと連携、新たなテクノロジー活用やヘルスケア分野への展開でスポーツ産業を拡大

【2】都市魅力増進フィールド

③観光産業の高度化プロジェクト

- 食のブランディングと富裕層向けインバウンドビジネスの振興による、観光産業の高度化と都市ブランドの向上

④都市魅力のさらなる向上プロジェクト

- 万博開催・IR開業を機に、大阪・関西の多様な都市魅力を発掘・発信

【3】イノベーション・エコシステム構築フィールド

⑤オープンイノベーション促進プロジェクト

- 多様なプレイヤーが参画できる複数のオープンなプラットフォームを基盤とした新産業の創出支援

⑥デジタル変革推進プロジェクト

- デジタル技術を活用した実証・実装によるビジネス変革の推進

【4】生産性向上・経営力強化フィールド

⑦人材確保プロジェクト

- 民間企業と連携した人材マッチングの強化、女性・外国人材の活躍促進
- 人材確保のための働きやすい環境整備

⑧生産性向上プロジェクト

- 一次的な窓口と5支部を通じて、情報提供・相談から具体的な導入コンサルティングを総合的に実施

⑨事業承継ハンズオン支援プロジェクト

- 第三者承継と承継後の支援に注力

グローバル化に対応

＜基盤強化＞

中堅・中小企業のビジネス環境を整備

ビジネス拡大

人材育成

創業・経営力・災害対応力強化支援

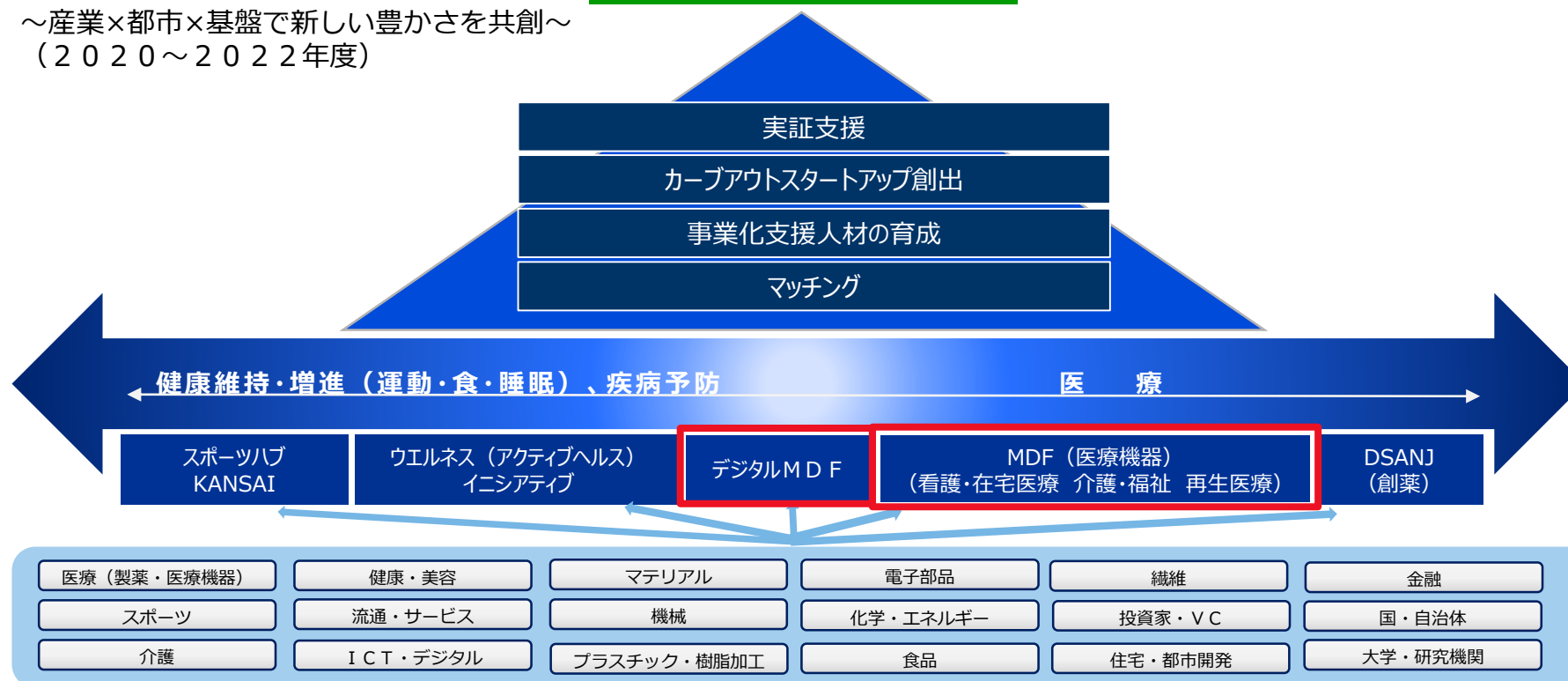
インフラ整備

政策提言・要望

- ◆多様な業種の企業や全国の大学・研究機関の参画を得て、創薬・医療機器から、ウェルネス（アクティブヘルス）、スポーツまで幅広い領域を振興
- ◆有望な創薬プロジェクトの推進を加速する手法の検討や、医療機器分野における事業化支援人材の育成などにより、ビジネス化の取り組みを強化

抜粋：大阪商工会議所 中期計画
「たんと繁盛大阪アクションN e X T」
～産業×都市×基盤で新しい豊かさを共創～
(2020～2022年度)

ビジネス化加速



ウェルネス未来社会デザイン 共創ネットワーク

スマートウェルネスシティの創出や、 グローバル市場を視野に入れたデジタル医療分野の産業振興をめざし、 健康医療分野における多様なプロジェクト創出と実証を推進

健都、万博、うめきた2期、スーパーシティ特区の活用など、具体的なエリアへの実装を想定して、健康・医療関連サービス、プロジェクトを創出し、実証を推進し、大阪において「スマートウェルネスシティ」モデルの実現をめざす。



ウェルネス未来社会デザイン共創ネットワーク



既存事業の「実証・実装」につなげる取り組み強化



分野横断ビジネス創出、デジタル化、グローバル市場にフォーカス



新たに万博、街づくりプロジェクトとの連携軸を追加



薬、医療機器からスポーツまで多様な分野の研究開発、事業化推進

←健康づくり・予防

診断・治療→

ウェルネス未来社会デザイン共創ネットワーク



主催：うめきた2期みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会 共催：大阪商工会議所・次世代医療システム産業化フォーラム／在日米商工会議所関西支部

登録者数：461社・団体 868名(9月末時点)



大阪においては、2024年のうめきた2期、2025年の大阪・関西万博、夢洲開発など、人びとの心身の健康に焦点をあて、新たな価値観や様々なライフスタイルに対応したスマートな街づくりを進める機会がある。本事業は、こうした『スマートウェルネスシティ』に必要な新たなビジネスやプロジェクトを生み出すことをめざし、多様な企業が連携し、モデルケースづくりや実証、実装を進めるもの。

セミナーシリーズ

多くの企業を対象に、データ駆動型のスマートシティや、医療、健康分野のシームレスな連動等、新型コロナにより変革した価値観に対応したスマートウェルネスシティを実現する上で必要となる技術・規制動向、課題や国内外の先進事例等に関する情報を提供し、大阪においてモデルケースを創出する検討につなげる。

ワークショップ

特定の異業種企業間で、複数の商品サービスを連携し、人々の心身の健康維持や活動的な生活を支えるために新たな価値を生むビジネス、プロジェクトを創出する共創推進の取組み。実際のフィールドで、モデルケースの実証も実施する。

ウェルネス未来社会デザイン共創ネットワーク

withコロナ、postコロナのスマートウェルネスシティ 大阪におけるいのち輝く未来社会の共創

主催：うめきた2期みどりイノベーションの融合拠点形成推進協議会 共催：大阪商工会議所・次世代医療システム産業化フォーラム／在日米商工会議所関西支部

第1回
7月22日
497名参加
データ連携の意義



慶應義塾大学医学部教授
宮田 裕章氏



大阪大学特任教授
日本医療研究開発機構PD
妙中 義之氏

いのち輝く未来社会、心身ともに健康に生き活きとした暮らしを支える
スマートウェルネスシティとは

様々なデータを連携させることで、健康、医療は本来あるべきシームレスにつながる姿を実現することができる。また、デジタルの世界では、人々が、より容易に繋がることができ、Social Shared Valuesを追及する未来社会をつくることが加速される。

第2回
8月21日
374名参加
データ連携の手法



弁護士・バイオ戦略有識者
吉澤 尚氏



合同会社SARR代表執行社員
Digital Platformer(株)取締役CSO
松田 一敬氏

データの共有はいかに実現するのか、データ連携基盤の構築に向けた課題と可能性

海外では個人データの連携で多様なサービスが生み出されている。日本ではデータ収集を起点に検討されるが、本来、個人がサービスを利用する中でデータを提供し、各データの連携を進める仕組みが必要。デジタルID/地域通貨はその軸となり得る。

第3回
9月25日
330名参加
大阪でのデータ連携



大阪大学大学院医学系研究科
公衆衛生学 特任准教授
野口 緑氏



エストニア共和国大使館
全権大使特別補佐官
須原 誠氏



塩野義製薬株式会社経営戦略本部
デジタルインテリジェンス部長
小林 博幸氏

データの連携によるスマートウェルネスシティの大阪での実践

現在、データは様々な場所に分散管理されているが、データは、個人が所有するという考え方で管理、連携させると、個人それぞれの課題が可視化され、その課題に合った知識、情報が個人にフィードバックされ、行動が変容し、解決につながる。大阪において官民学連携で、こうした取り組みを推進すべき。

多国間メドテックアクセラレーション

～世界基準の医療イノベーションを実現する多国間エコシステム連携～

日本において、メドテックスタートアップが国際市場に向けた事業プランを立て、投資家やパートナー企業もグローバル視点で事業性を測るしるしを根付かせることを目的に、多国間で連携したアクセラレーションプログラムを展開予定。キックオフイベントとして、「ヘルスケア産業の未来-Future of Healthcare-」を開催。

Feb 9 2021
on Zoom
Webinar

キックオフ

Inter-APAC MEDTECH ACCERARATION NETWORK

FUTURE OF HEALTHCARE

主催

プログラム



共催



◆開会のご挨拶

大阪商工会議所副会頭
塩野義製薬株式会社 代表取締役社長 手代木 功氏

◆セッション - 1 『日本におけるヘルスケアの現在と未来』

【講演】
在日米国商工会議所ヘルスケア委員会デジタルヘルス担当副委員長
日本クラウドセキュリティアライアンス 代表理事 笹原 英司氏

在日米国商工会議所 関西担当副委員長
日本イーライリリー株式会社 コーポレート・アフェアーズ本部
企画・医療政策部 課長 間宮 真矢氏

塩野義製薬株式会社
デジタルインテリジェンス部長 小林 博幸氏

【プレゼンテーション】
メロディ・インターナショナル株式会社
ディレクター 松田 一敬氏

◆セッション - 2 『グローバル視点によるヘルスケアの未来』

【講演】
メドテック・アクチュエーター
CEO バズ・パーマー氏、CSO ヴィシャー・キショア氏
デロイト・アクセス・エコノミクス・オーストラリア
代表 パラディーブ・フィリップ氏

◆セッション - 3 『ヘルスケアの未来に向けたアジア・太平洋州におけるメドテック・エコシステムの連携』

【パネルディスカッション】
モデレーター：
次世代医療システム産業化フォーラム 座長
日本医療研究開発機構(AMED)プログラムディレクター
大阪大学 国際医工情報センター
特任教授 妙中 義之氏

パネリスト：
セッション 1、2 の登壇者

医療機器等関連事業

～MDF（次世代医療システム産業化フォーラム）～

全国最大級（全国対象） 産学医・産産連携による 医療機器等開発促進プラットフォーム

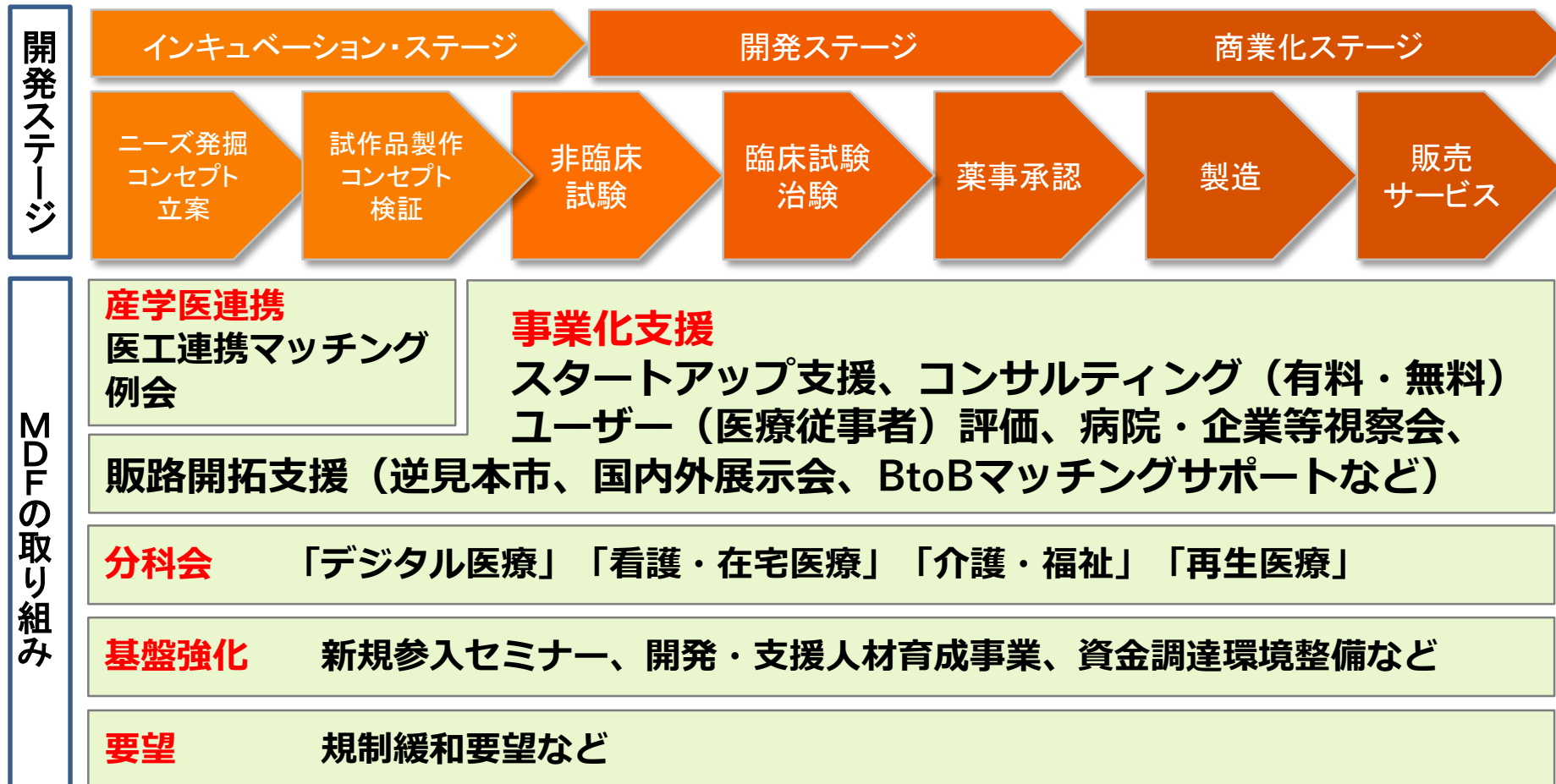
【事業目的】

- 異業種からの医療・健康分野への新規参入促進による新ビジネス創出 & 地域経済活性化
- 医療・健康分野（特に医療機器等）におけるイノベーション創出エコシステム構築
- 大阪・関西さらには日本の医療機器開発ハブ拠点形成

【特徴】

- 全国に先駆け2003年より実施
- 同分野唯一の全国対象プラットフォーム（全国の病院・大学・研究機関・企業の参加）
- 国の機関であるAMED（日本医療研究開発機構）とも連携。国の政策立案にも関与。
- 全国統一の事業化支援体制（←国の支援ネットワークのモデル）
- 欧米アジアとのグローバルネットワーク構築

全国統一の医療機器等開発エコシステム構築



会員数は分科会会員含め のべ1,251 2,965名！（メルマガ会員除く）

事業参加者数		2021年2月時点	
企業会員数 (企業正会員等)		115社	
会員登録者数 (企業正会員、医療機関等の特別会員の登録者)		686名	
関心登録者数 (メルマガ等配信登録者)		4764名	
分科会 関心登録者	デジタル医療	242社	595名
	看護・在宅医療	383社	678名
	介護・福祉	300社	556名
	再生医療等	211社	450名

医工連携マッチング例会実績（2021年1月31日時点）

ニーズ・シーズ提案⇒マッチング ⇒ さらに進展

	課題提案数 (例会発表案件数)	マッチング数 (関心社・研究者との 個別面談数)	面談後進展数 (左記マッチング からの発展)
2020年度	43件	107件	10件
累計 (2003年開始時～)	826件	2,900件	401件

MDF事業化実績

事業化
(上市等)
57件

※MDF関連事業での
事業化14件を含む



例会での医療現場ニーズ発表



例会後の懇親会

- 参加機関・企業数
- 発表案件数
- 事業化件数

115社

43件（累計826案件）

57件

2021年1月時点

多様化する事業機会をとらえて、2019年度より新たに4つの分科会を設け、テーマごとに掘り下げて、情報提供や交流・マッチングを行った。

デジタル医療分科会（2018～）

高度化するA I、I o T技術等の医療・ヘルスケア領域での応用可能性を探る

登録企業・組織数
242社・機関／595名



看護・在宅医療分科会（2019.5～）

規制対象となる医療機器のみならず、業務補助や生活支援も含む医療現場ニーズ商機を探る

登録企業・組織数
383社・機関／678名



介護・福祉分科会（2019.8～）

今後一層の人材不足が懸念される介護福祉分野の課題・動向を紹介する

登録企業・組織数
300社・機関／556名



再生医療等分科会（2019.9～）

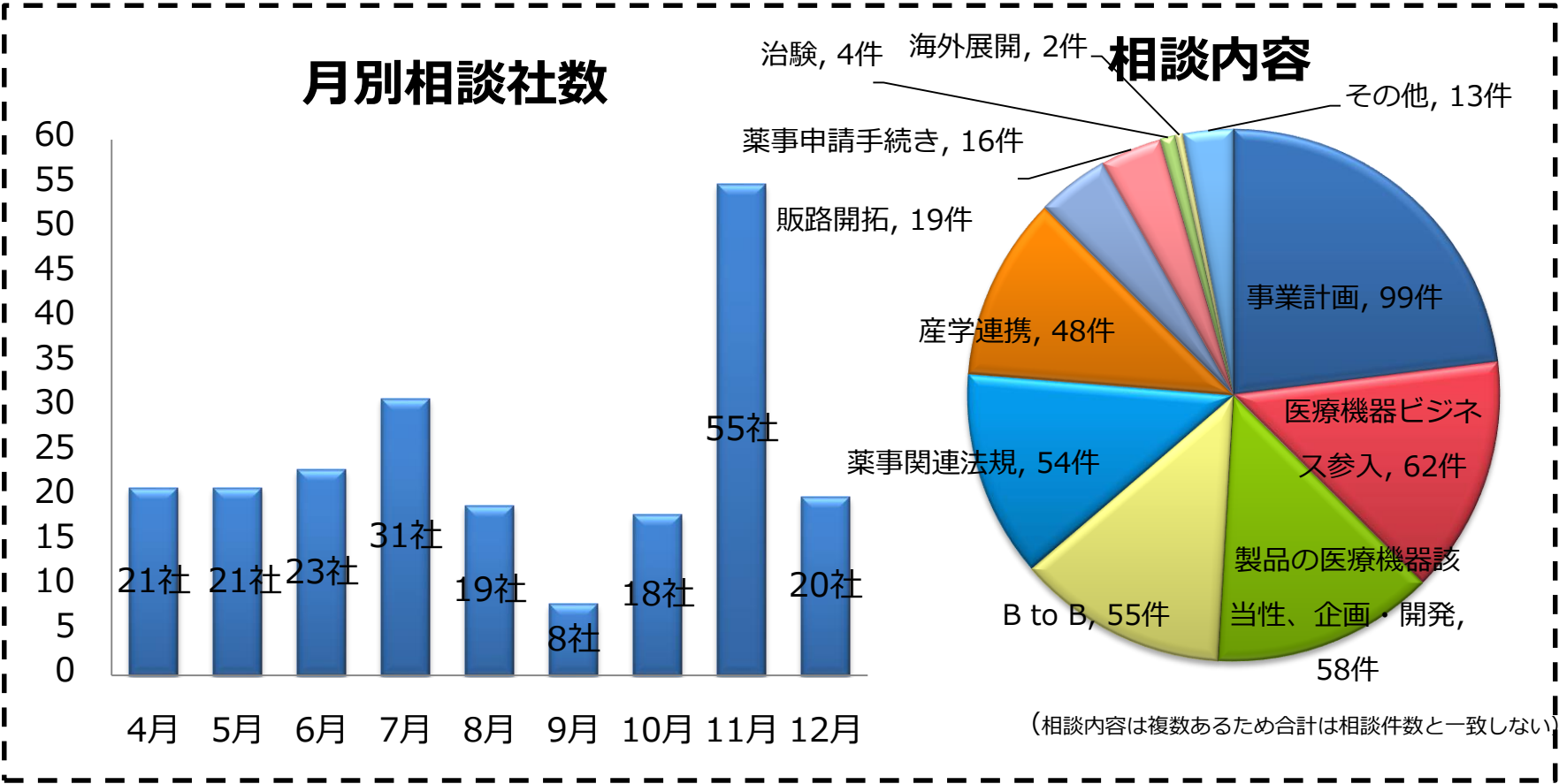
再生医療等に関する課題やビジネス展開のヒントとなる取り組みを紹介する

登録企業・組織数
212社・機関／450名



次世代医療システム産業化フォーラム事業、或いは関西広域連合医療機器相談窓口業務、近畿経済産業局地域中核企業創出・支援事業などと連携し、各企業が医療機器の開発や事業化を推進する際に直面する課題について専門家が個別にアドバイスする機会を提供した。2020年度からは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、オンラインでの相談対応を中心に行った。

2020年度 事業化相談社数合計 216社(430件) (2020年4月～2020年12月)



MDFの医療機器相談の一環として、**健康増進機器に関する相談も受け付け開始**。日本ホームヘルス機器協会（※1）の「**健康増進機器認定制度**（※2）」の活用に関するものについても対応するほか、介護も含め、ウェルネス分野全体にわたる相談体制の構築を目指す。

（参考）健康増進機器認定品例（日本ホームヘルス機器協会提供）

健康増進機器 認定製品例



SIXPAD Foot Fit
（株式会社MTG）



KENCOS4
（株式会社アクアバンク）



清潔すこやかフロア
[光触媒塗布床材]
（株式会社LIXIL住宅研究所）



MIGUSA畳表
（積水成型工業株式会社）

※2「健康増進機器認定制度」とは

予防医療（健康）機器の普及を目的に一般社団法人日本ホームヘルス機器協会が2018年に制定した業界認定制度。2020年7月20日現在、認定数：25製品、モデル追加：44製品の合計69製品が認定済み。

※本認定制度は、経済産業省の「ヘルスケアサービスガイドライン等のあり方（H31.4.12）」にも、基づいている。



※1 一般社団法人日本ホームヘルス機器協会とはホームヘルス機器に関する技術の向上、品質及び安全性の確保、流通及び販売の適正化等を図ることで、国民の健康の自主的な保持増進とホームヘルス機器産業の健全な発展を推進することを目的として設立された法人。前身は、厚労省・通産省共管の公益法人。会員数138社・団体（10月1日現在）。

新型コロナウイルス感染症に関連した取り組み

1. 医療機関への医療物資供給支援
2. 診断機器、感染対策製品等、開発促進
3. 医療現場の課題解決に向けた取り組み

優れた医療の提供、市民の安心安全な生活、
産業振興、経済活性化の両立をめざす大阪モデル

1. 医療・介護資材SOSマッチングサービス

新型コロナの影響により医療・介護現場で不足する資材等の課題やニーズを満たす一助として、マッチングサービスを実施。21件のニーズに対し412件の提案があり5件が成約。

事務局（大阪商工会議所）

（次世代医療システム産業化フォーラム）



ザ・ビジネスモール



5件の成約

マッチング&課題解決

自治体・医療現場等の
ニーズ

21
件の
ニーズ

4
1
2
件の
提案等

企業
の製品・
シーズ等

2. 新型コロナ関連セミナー

「医療・介護分野への新規参入セミナー」

日 時：2020年4月20日

参加者：311名

～医療・健康・介護分野における課題解決～
～新型コロナウイルス含む感染症対策への貢献
から考える

「新型コロナウイルス対策最前線」

日 時：2020年7月7日

参加者：355名（参加費無料）

～ワクチン開発等、社会を支えるライフ
サイエンス産業の重要性～



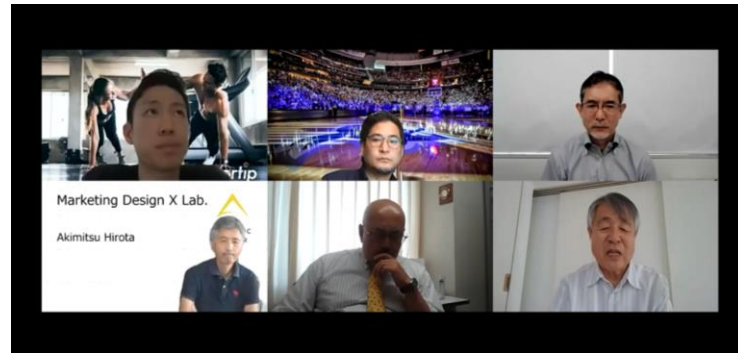
スポーツハブKANSAI

登録者数：**713社・団体1,159名**

スポーツ × テクノロジー、エンタメ、ウェルネスに注力

ビジネスマッチング例会

新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインによる開催を継続。開催頻度は増加



特別例会 2020.5.27 参加者60名／事業提案9件

連携テーマ提示：(一社)世界ゆるスポーツ協会

第9回例会 2020.6.15 参加者124名／事業提案16件

基調講演：KDDI(株) 連携テーマ提示：(株)Sportip、(株)Xenoma、インブレース(株)

事例紹介：アシックス・ベンチャーズ(株)、(株)no new folk studio、(株)ユーフォリア

第10回例会 2020.10.9 参加(申込)者119名

基調講演：パナソニック(株) 連携テーマ提示：ドリコス(株)、パラマウントベッド(株)

YouTubeチャンネル

オンラインを活用した継続的な情報発信、ビジネスマッチングの実施に向けて**YouTubeチャンネルを開設。**



企業・有識者ミニセミナー、企業インタビュー等、YouTube限定企画を多数配信



▶ 9月末時点で**計13本の動画を公開、のべ2,631回再生。**

創薬シーズ・基盤技術アライアンス ネットワーク（DSANJ）

- DSANJ＜ Drug Seeds Alliance Network Japan（創薬シーズ・基盤技術アライアンスネットワーク）＞は、製薬企業の創薬研究活動を支援するプログラム。
- 全国の大学、研究機関、バイオベンチャーの研究成果（創薬シーズ、基盤技術）を対象に、製薬企業向け商談会「DSANJ Bio Conference」を年2回開催し、製薬企業の創薬研究を支え、新たな薬の開発を目指す。
- 独自データベースに収集、蓄積した創薬関連技術について、専門家の意見や製薬企業の関心動向を踏まえて、評価・選抜した案件を商談会に招聘する。

①情報収集
⇒②評価
⇒③編集
⇒④マッチング商談会
「DSANJ Bio Conference」
⇒⑤フィードバック
⇒⑥共同研究契約締結

の流れを半年に1回のサイクルで実施し、
製薬企業の創薬シーズ導入を支援

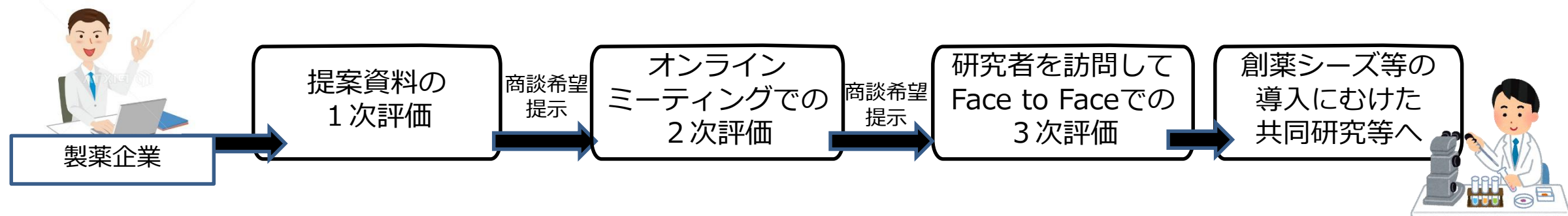


主 催 : 大阪商工会議所、日本医療研究開発機構、日本製薬工業協会、医薬新結合研究所

共 催 : 大阪府、大阪市、関西医薬品協会

開催方法 : 昨年度までのイベント型のリアルミーティングから**オンラインミーティングに全面変更**。

信頼関係構築、詳細情報把握を可能にするため、製薬企業と**研究者のFace to Face ミーティングも設定**



第6回Conference (2020年度夏期) 開催結果

開催日程 : 2020年9月2日 (水) ~ 4日 (金)

参加企業 : 製薬企業 35社

発表案件 : 41機関 63件

案件分野 : 創薬シーズ、基盤技術、バイオマーカー、
診断薬、診断技術等

面談数 : 330件 (※1社あたり9.4件と面談)

第7回Conference(2020年度冬期) 開催予定

開催日程 : 2021年1月27日 (水) ~ 29日 (金)

参加企業 : 製薬企業 37社

発表案件 : 51機関 95件

案件分野 : 創薬シーズ、基盤技術、バイオマーカー、診断
薬、診断技術等

沿革・組織

創 設：昭和52年6月1日

所 在 地：大阪府吹田市

主な組織：研究所、病院、オープンイノベーションセンター

役職員数(常勤)：1,260名

病 床 数：550床 ※許可病床数



設置目的

我が国の脳卒中、心臓病等の循環器病対策の中核的機関として、循環器病についての調査、研究、医療技術の開発、医療の提供及び医療従事者の研修等を行う。



特徴

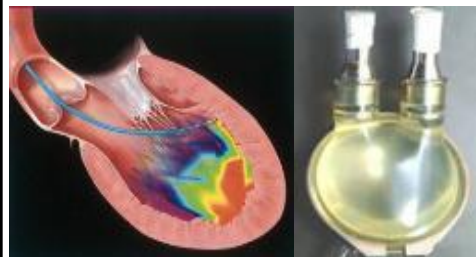
○最新・最善の医療の提供

- ・年間約3,400件の重症循環器病救急搬送を受け入れ
- ・国内心移植529例のうち、135例を実施
- ・脳梗塞に対する超急性期血栓溶解療法(tPA静注療法)を年間100例超実施



○先端医療技術の開発と普及

- ・在宅型体内埋め込み型人工心臓・次世代型呼吸補助装置の開発
- ・世界に先駆けて発見した生理活性ペプチド、タンパク質を診断・治療の開発へ応用
- ・2,137名以上の若手医師を育成、94カ国から1027名以上の外国人研修生を受け入れ



沿革・組織

- 【創 設】平成27年4月1日
- 【本部所在地】大阪府茨木市 彩都ライフサイエンスパーク
- 【主な組織】理事長、理事、監事（非常勤2名）
- 【職員数(常勤)】116人(令和3年1月1日現在)
- 【令和2年度予算】3,894百万円



目 的

- 医薬品等及び生物資源の開発に資することとなる共通的な研究、民間等において行われる研究及び開発の振興等の業務を行うことにより、医薬品技術等の向上のための基盤の整備を図り、もって、国民の保健の向上を図る。
- 国民の健康の保持及び増進に関する調査及び研究並びに国民の栄養その他国民の食生活に関する調査及び研究等を行うことにより、公衆衛生の向上及び増進を図る。

業務内容

- ① 医薬品等の開発に資する基盤的技術の研究開発及び創薬支援
- ② 医薬品等の開発に必要な生物資源の研究開発及び供給
- ③ 希少疾病用医薬品等の開発振興
- ④ 国民の健康の保持及び増進に関する調査・研究
- ⑤ 国民の栄養その他国民の食生活の調査・研究
- ⑥ 食品についての栄養生理学上の試験

業務内容	具体的な取組
医薬品等の開発に資する基盤的技術の研究開発及び創薬支援	・ 難病に対する治療法や医薬品等の研究開発 ・ 新興・再興感染症に対応するワクチン等の研究開発 ・ 医薬品等の安全性等評価系構築に向けた研究開発 ・ 抗体・核酸医薬品の開発を推進するため、抗体・核酸のスクリーニング、デザイン等に関する技術の研究開発 ・ 新規創薬のターゲットを探索する人工知能(AI)の開発
研究に必要な生物資源の研究開発及び供給	・ JCRB細胞バンク事業、実験動物研究資源バンク、難病研究資源バンク等で、研究用試料の収集・分譲及び研究用資源の開発等 ・ 霊長類医科学研究センターにおいて、高品質な実験用サル類の供給及び研究開発 ・ 薬用植物資源研究センターにおいて、薬用植物の栽培、収集、種の保存及び供給
希少疾病用医薬品等の開発振興	・ 希少疾病用医薬品等に対する、助成金交付、指導・助言等の実施
国民の栄養その他国民の食生活の調査・研究	・ 国民健康・栄養調査の集計・解析 ・ 食生活・栄養の健康への影響に関する栄養疫学的研究
国民の健康の保持及び増進に関する調査・研究	・ 「健康づくりのための身体活動基準・指針」の改定に資する研究 ・ エネルギー代謝、主要栄養素の適切な摂取に関する調査研究 ・ 運動と食事の相互作用に関する研究
食品についての栄養生理学上の試験	・ 特別用途食品等の表示許可等に係る試験業務 ・ 食品成分の安全性・有効性に関する調査研究

SDGsに関連する主な取組み

- 医薬基盤・健康・栄養研究所は、企業の取り組みが難しい難病や感染症の研究をはじめとした最先端の創薬科学研究、健康・栄養に関する研究に取り組んでいます。
- 以下に、SDGsに関連する主な取組みを紹介します。

新薬創出を加速するAIの開発【PRISM】



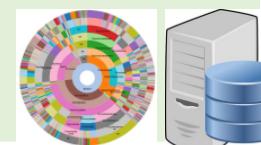
各種疾患の診療情報・オミックスデータ（生体分子情報）を活用し、創薬ターゲット分子の発見・同定に繋げるための高精度解析ツール（AI）を開発実装することにより、特に難病などの「創薬標的の枯渇問題」を解決し、優れた医薬品の創出に貢献する。



健常人を対象とした生活環境とマイクロバイオーームに関する研究【PRISM】



健常人と糖尿病患者の腸内細菌叢や生活習慣等のビッグデータを収集し、糖尿病を改善する腸内細菌や代謝物を解明するなど、個別化/層別化ヘルスケア・栄養システム、創薬のための公開DB・AIの機能強化を図り、腸内環境を基軸にした健康科学の発展に貢献する。



住民参加型バイオコミュニティの形成【共創の場形成支援プログラム】



難治性心血管疾患・難治性がん・認知症・新興再興ウイルス感染症を克服できるレジリエント社会の実現のため、健康医療情報に対するAI解析スキルを活用し、循環器病研究センターと連携して、健康長寿社会を目指す住民参加型バイオコミュニティを形成する。



栄養政策の共同研究と国際協力事業を実施【国際栄養協力事業】



アジア太平洋地域を中心に、栄養に関連した政策研究を実施するとともに、「栄養と身体活動に関するWHO協力センター」として国際シンポジウムの開催や海外からの研修生の受け入れを実施することにより、日本の優れた栄養政策の発信に努めている。

